

化と美しさを意識した配布物が多くの国の代表者の心を動かしました。代表者の中には涙する方もいらした程です。プレゼン終了後は部屋の外で待機する事になりホテルのラウンジで結果を待ちました。プレゼン終了後約1時間、その瞬間はおとずれました。開票結果の一報が道免教授に届いた瞬間の感動は今でも忘れられません。その後は各国の参加者から『Congratulations!』と声をかけられ、皆さん2019年のISPRM日本開催を楽しみにしてくれ

ているようでした。

今後ISPRMは2016年クアラルンプール、2017年ブエノスアイレス、2018年パリと続き、2019年6月9日(日)～13日(木)に神戸で開催されます。神戸での開催にあたっては近畿地方会の皆様のご支援、ご協力をお願いする事もあるかと思いますが、どうぞ宜しくお願いいたします。



第3回近畿地区新専門医交流会の開催報告

和歌山県立医科大学 リハビリテーション医学 中村 健

平成27年10月25日(日)、大阪医科大学において第3回近畿地区新専門医交流会を日本リハビリテーション医学会専門医会と近畿地方会の共催で開催いたしました。この新専門医交流会は、2年前に近畿地区の新専門医の交流を目的として開催し、今年は3回目の開催となりました。今回も昨年と同様に、専門医取得後3年以内の先生方を対象とし演題発表と懇親会の形式で行いました。近畿地区では、平成27年度も20名の新専門医が誕生しており、平成26年度と25年度の新専門医と合わせて65名を対象に参加を呼びかけ、11名の新専門医の先生方の参加があり、4演題の発表がありました。また、近畿地方会から8名の幹事の先生方にも参加頂きました。

演題発表会では、京都府立心身障害者福祉センター附属リハビリテーション病院の徳永大作先生より「病院紹介:京都府立心身障害者福祉センター附属リハビリテーション病院」、京都大学医学部附属病院リハビリテーション科の池口良輔先生より「施設と自分の紹介」、医療法人共栄会名手病院の池田宜史先生より「地域密着型中小病院におけるリハビリの現状」、近畿大学医学部附属病院呼吸器アレルギー内科の東本有司先生より「当院における外来呼吸リハビリテーションのとりくみ」という演題名で発表が行われました。施設紹介や日頃の診療の取り組みなど新専門医の先生方のご活躍を発表頂き、和やかな雰囲気のもと質問や意見交換が行われました。本年度は、2名の先生から地域病院、2名の先生から大学病院でのリハビリテーション医療の取り組みが発表され、それぞれの立場や環境における取り組みの違いが解り私自身も参考になりました。

懇親会は、例年通り大阪医科大学の地下食堂で行われ、最初

に近畿地方会幹事ならびに日本リハビリテーション医学会理事であります道免和久先生に乾杯の挨拶を頂きました。懇親会の中では、各新専門医と近畿地方会幹事の先生方の自己紹介なども行い、参加者間の懇親を深める事ができました。最後に、恒例となりました参加者による記念撮影を行い、近畿地方会代表幹事の佐浦隆一先生より閉会の挨拶を頂き交流会を終了いたしました。

本年度の交流会も例年同様、和やかな雰囲気のもと交流が行われ有意義な会となりました。この新専門医交流会も3回目となりましたが、新専門医の参加者は、第1回が9名、第2回が16名、第3回が11名となっています。参加者が、もっと多くても良いのではないかとの意見もあり、より良い交流会とするために参加対象者や開催形式の見直しなども検討していければと考えております。最後に、新専門医交流会に参加して頂いた新専門医、近畿地方会幹事の先生方に深く感謝いたします。

